

(写)

令和元年12月16日

深谷市長 小島 進 様

深谷市上下水道事業運営審議会
会長 岩 崎 行 雄



深谷市農業集落排水処理施設使用料について (答申)

令和元年10月1日付け深企業発第121号により、市長から「深谷市農業集落排水処理施設使用料について」の諮問を受け、本審議会において慎重に審議を進め、その結論を得ましたので、下記のとおり答申します。

記

1. 農業集落排水処理施設使用料

(1) 従量制への移行について

現行の使用料体系は、世帯人数に応じて使用料を算定する人数割制を採用しているが、この算定方法では使用実態が適正に使用料として算定されないという課題がある。このため、汚水排水量に応じて使用料を算定する従量制へ移行し、使用料算定の明確化を図られたい。

(2) 公共下水道使用料体系への統一について

本市の下水道事業は、公共下水道事業と農業集落排水事業の二つの事業を運営しているが、使用料体系が異なっており、同種の汚水処理サービスに対する受益者負担の公平性が図られていないという課題がある。このため、農業集落排水処理施設使用料体系を公共下水道使用料体系（第3段階）に統一し、受益者負担の公平性を図られたい。

(3) 使用料単価及び経費回収率の改善について

農業集落排水処理施設使用料の使用料単価及び経費回収率は低い水準となっており、収入不足分を一般会計からの基準外繰出金により補てんしている状況である。このため、(1)及び(2)の取組により使用料単価及び経費回収率の改善並びに一般会計からの基準外繰出金の削減を図られたい。

2. 附帯意見

(1) 事業全般について

下水道事業は、住民の健康で快適な生活環境の確保と公共用水域の水質保全を図るために欠くことのできない基幹的なインフラ施設である。このため、引き続き施設の計画的な整備及び更新を進めるとともに、施設の適切な維持管理に努め、経費節減を図られたい。

また、下水道事業を将来にわたって持続可能なものとするため、本審議会



された農業集落排水処理施設の公共下水道への統合及び岡部浄化センターの深谷浄化センターへの統合を計画的に進め、施設の再構築及び有効利用による経営合理化を図られたい。

(2) 利用者への周知について

使用料改定にあたっては、その時期を適切に判断するとともに、改定の趣旨及び内容について利用者に対して積極的な周知と説明を行い、理解を得られるよう努められたい。

(3) 利用者への広報について

下水道事業運営にあたっては、利用者の理解と協力が不可欠であることから、経営状況や事業の進捗状況について、利用者に対して積極的に情報提供を行うなど広報に努められたい。

(4) 定期的な検証について

事業運営にあたっては、経営状況を常に注視することが必要である。予算編成及び決算調製などの機会をとらえ、経費回収率及び収納率などの各種経営指標について定期的に検証されたい。

(5) 普及促進について

公共下水道及び農業集落排水の接続率向上のため、未接続者に対して積極的に普及促進を図られたい。

(6) サービスの向上について

使用料収入を安定的かつ確実なものとするためには、その環境づくりが重要である。社会経済環境の変化に対応した収納手段を検討するなどサービスの向上を図られたい。

深谷市上下水道事業運営審議会 委員名簿

会 長	岩 崎 行 雄
副会長	小 林 賢一郎
委 員	大 谷 かをる
委 員	引 間 ふじ子
委 員	江 黒 絹 代
委 員	梅 澤 克 江
委 員	栗 田 陸 代
委 員	石 塚 孝 子
委 員	簗 輪 幸 三
委 員	大 渡 栄久美
委 員	今 井 幸 子
委 員	萩 原 昭 一
委 員	本 田 壽 子
委 員	持 田 寿 子
委 員	山 崎 典 子

深谷市上下水道事業運営委員会 審議経過

	開催日及び会場	審議内容
第1回	令和元年10月1日(火) 水道庁舎第1会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱及び正副会長選出 ・諮問 ・審議会について ・下水道事業の現状と課題について
第2回	令和元年10月24日(木) 水道庁舎第1会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・農業集落排水処理施設使用料について ・下水道事業の今後の取組について
第3回	令和元年11月7日(木) 岡部公民館中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・答申について